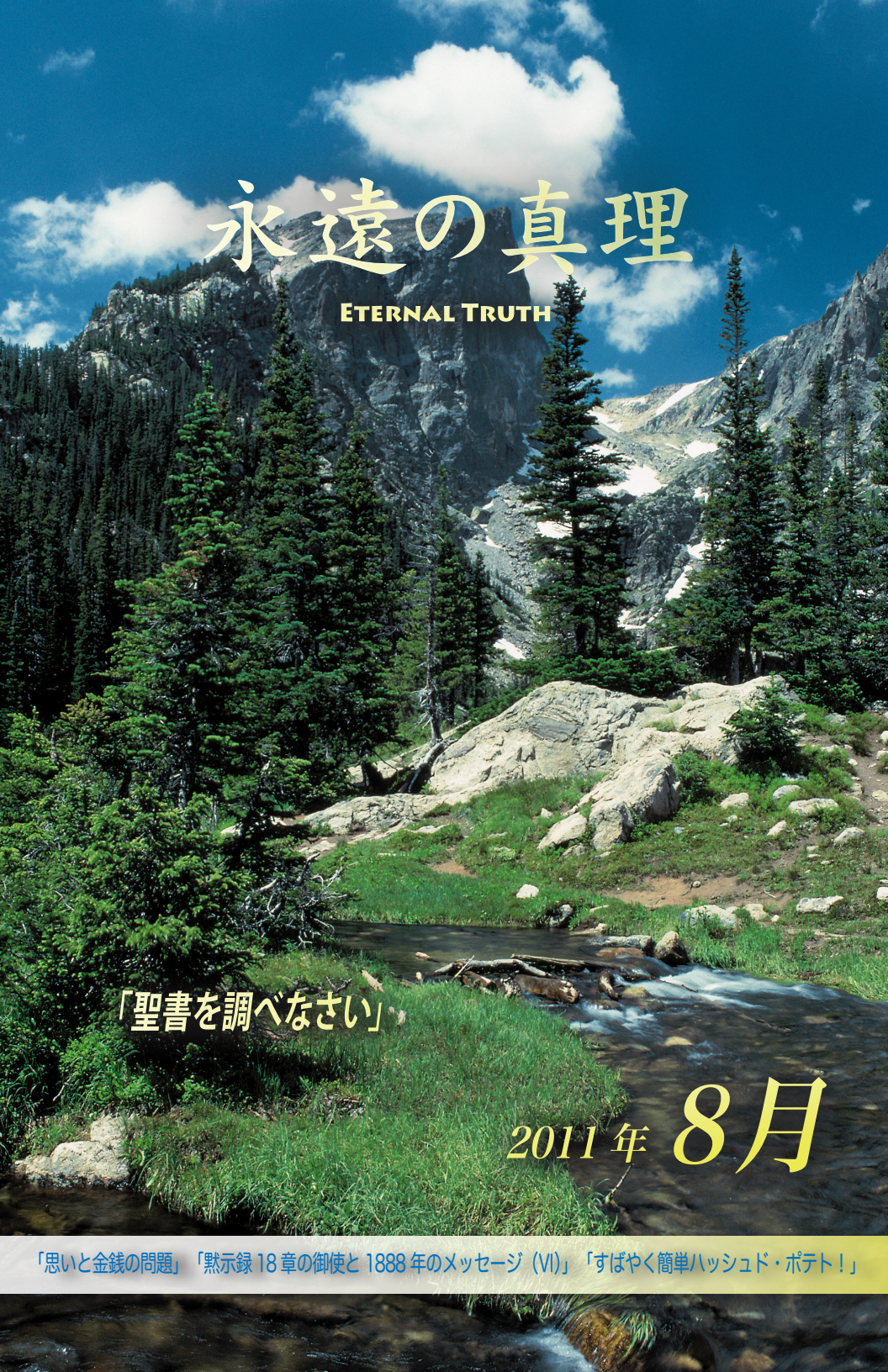

永遠の真理

ETERNAL TRUTH

「聖書を調べなさい」

2011年 8月

「思いと金銭の問題」「黙示録18章の御使と1888年のメッセージ（VI）」「すばやく簡単ハッシュド・ポテト！」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「聖書を調べなさい」 4

朝のマナ

「思いと金銭の問題」 8

神のみかたちを回復する

現代の真理

「黙示録18章の御使と1888年のメッセージ(VI)」 40

The Good Way Series

力を得るための食事

「すばやく簡単ハッシュド・ポテト!」 44

お話コーナー

「新しいことのすばらしさ」 46

教会

【正丸教会】

〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015　高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：http://www.4angels.jp
メール：support@4angels.jp

発行日　2011 年 7 月 31 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：comstock.com p.1; Gettyimages p.1;
Sermonview p.9

Printed in Japan

長い間、神と交わっている間に

長い間、神と交わっている間に、モーセの顔は、神の臨在の栄光を反映していた。モーセは、自分では気づかなかったが、山から降りて来たとき、彼の顔はあかあかと輝いていた。それと同じ光が裁き人らの前に立ったステパノの顔にも輝いた。「議会で席についていた人たちは皆、ステパノに目を注いだが、彼の顔は、ちょうど天使の顔のように見えた」(使徒行伝 6:15)。アロンも人々も、モーセを避けてあとずさりした。「彼らは恐れてこれに近づかなかった」(出エジプト記 34:30)。何が原因だかわからなかったが、彼らがあわてふためいているのを見て、モーセは彼らに近づいて来るように言った。彼は、神の和解の契約を彼らに示し、神の恵みが回復されたことを知らせた。……彼らは罪を意識していたので、自分たちはまだ神の怒りのもとにあると考え、天の光に耐えることができなかった。ところが、もし彼らが神に服従していたならば、喜びに満たされたことであろう。罪には恐怖がある。罪から解放された魂は、天の光から隠れようとは望まないのである。……

神はこの輝きによって、神の律法の清く高尚な性質とキリストによってあらわされる福音の栄光を、イスラエルの人々に強く印象づけようとされた。……そして、モーセの顔があのように光り輝いたのは、神の律法の栄光であったとともに、カルバリーから輝く天からの光でもあった。……彼は、ただひとりの真の仲保者キリストを代表していたのである。

モーセの顔に反映した栄光は、キリストの仲保によって、神の律法を守る人々に与えられる祝福を示していた。それは、われわれの神との交わりが密接であればあるほど、神のご要求に対するわれわれの知識も明らかになり、いよいよ神のかたちに近づき、神の性質にあずかることも、ますます容易になる。(人類のあけぼの上巻 387,388)

「聖書を調べなさい」

理性の力を与えられたすべての人間が、神に対する自分の関係を理解することは最高に重要である。わたしたちの学校では、贖いの働きが注意深く研究されていない。生徒の多くは、救いの計画が何を意味しているか真の概念をもっていない。わたしたちのために神のみ言葉が誓われている。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」（マタイ 11:28 ～ 30）。

生徒たちよ、あなたは完全な屈服と従順において、自らをキリストと結びつけるときにのみ安全である。くびきは負いやすい。なぜなら、キリストが重荷を担って下さるからである。あなたが十字架の重荷を負うとき、それは軽くなる。そしてその十字架はあなたにとって永遠の命の誓約である。喜んでキリストのみ跡に従い、一歩ごとに「あなたの助け（優しさ）は、わたしを大いなる者とされた」と叫ぶのは、各自の特権である。しかし、もしわたしたちが天に向かって旅をしたいのであれば、神のみ言葉を自分の教科書として受け入れなければならない。霊感の言葉の中に、わたしたちは日々自分の教訓を読まなければならない。

使徒パウロは、「キリスト・イエスにあっていだいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。人類の代表としてのその有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ」るためである（ピリピ 2:5 ～ 10）。

人なるキリスト・イエスのへりくだりは人間の思いには理解できない。しかし、このお方の神性と、世が形作られる以前の先在性は、神のみ言葉を信じる人々には決して疑いえない。使徒パウロはわたしたちの仲保者、神のひとり子について、

すなわち、栄光の状態にあるときに神のみかたちであられたお方、全天の万軍の司令官であり、神性を人生で覆われたとき僕のかたちを取られたお方について述べている。イザヤは「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』ととなえられる。そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、ダビデの位に座して、その国を治め、今より後、とこしえに公平と正義とをもってこれを立て、これを保たれる。万軍の主の熱心がこれをなされるのである」と宣言している（イザヤ 9:6,7）。

人となることに同意されることによって、キリストは天の知的存在者たちを驚かせるへりくだりを示された。人となることに同意される行為は、もしキリストの高められた先在性という事実がなければへりくだりとはならなかった。わたしたちはキリストがご自分の王衣とご自分の王冠とこのお方の高い指揮権をすてて、ご自分の神性を人性で覆うことにより、ご自分がおられたところで人と会い、また人類家族に神の息子娘となるための道徳力をもたらすことができるようにして下さったことを悟るために自分たちの理解力を開かなければならない。人を贖うためには、キリストは死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順にならなければならなかったのである。

神の御子の人性はわたしたちにとってすべてである。それはわたしたちの魂をキリストに、またキリストを通して神に結びつける黄金の鎖である。これがわたしたちの研究課題とならなければならない。キリストは実際の人であられた。このお方は人となることによってご自分のへりくだりの証拠をお与えになった。しかしなお、このお方は肉における神であられた。わたしたちがこの主題に近づくとき、燃える柴のところでキリストによってモーセに語られた言葉に注意を払うがよい、「ここに近づいてはいけない。足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである」（出エジプト記 3:5）。わたしたちは学ぶ者の謙遜さをもってこの研究主題にとりかかるべきである。そしてキリストの受肉の研究は、隠された宝を求めて深く掘り下げる探求者に報いを与える、実り多い分野である。

わたしたちの案内者としての聖書

聖書は永遠の命へ導く安全な道におけるわたしたちの案内者である。神は人に霊感を与えて、わたしたちに真理を提示し、引きつけ、また実践するならば、

受ける人が道徳的力を得て最も高い教育を受けた思いをもつ者の中に属することのできることを記させた。神のみ言葉を自分の研究課題とするすべての人々は大きくなる。他のどの研究にもはるかにまさって、この研究はその性質として理解力を増し加え、すべての機能に新しい活力を与える。それは思いを、広く高尚にする真理の原則に接触させる。それはわたしたちを全天との緊密なつながりのうちに入れ、知恵と知識と理解力を与える。

ありふれた著作物を扱い、霊感を受けていない人の著書で思いを養うとき、思いは矮小化され、低俗にされる。それは深くて広い永遠の真理の原則との接触に導かれない。理解力は、無意識にそれ自体が慣れ親しんだ事柄に関する理解に合わせる。そしてこれらの事柄を考えるうちに、理解力は弱められ、その力はせばめられる。

神は、聖書、すなわちあらゆる人間の理論にまさる科学の源泉を探るように意図されている。このお方は人が真理の鉱脈を掘り、そこに含まれた価値ある宝を得られるように望んでおられる。しかし、あまりにもしばしば人の理論と知恵が聖書の科学の代わりに据えられる。人は神のご目的を作りなおす働きに携わる。彼らは聖書の諸々の書の間を区別しようとする。自分たちの考案を通して、彼らは聖書が偽りであることを証明する。

まさに人が必要としているもの

神は福音の受け入れを人間の論証に依存させられなかった。福音は、人の霊的な食欲を満たすための霊的な食物として適用される。どの場合においても、それはちょうどまさに人が必要としているものである。わたしたちの学校の生徒たちに多くの著者を研究させる必要があると感じている人々は、その人自身、聖書の偉大な主題について無知なのである。教師自らがあらゆる書物のなかの書物を取り上げて、福音には謙遜な悔い改める思いに対してそれ自身の神性を実証する力があることを、聖書から学ぶ必要がある。

福音は神の力であり、神の知恵である。地上におけるキリストのご品性は神性を表した。そしてこのお方が与えて下さった福音は、教師と子どもと青年が唯一の真の生ける神を自分たちの信仰と愛と敬愛の対象として見分けるまで、すべての教育支部において、このお方の人間の嗣業の研究課題となるべきである。み言葉は尊ばれ、従われるべきである。キリストの生涯、そのみ働き、その教理、

その苦難と最終的な勝利の記録を記載した書物は、わたしたちの力の源となるべきである。わたしたちはより高い生涯―最高の学校における最高の学年、すなわち神の下でわたしたちの研究が尽きない永遠にわたって続けられるところ―への資格を得ることができるようにこの世における学校生活の特権が与えられている。

引用参考文献

ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1巻 242-245

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God

8月 「思いと金銭の問題」

園での良い時間

「主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。」(創世記 2:15)

アダムとエバは手入れをするようにとエデンの園を与えられた。彼らは「これを耕」し、「これを守」るのであった(創世記 2:15)。彼らは自分たちの仕事において幸せであった。思い、心、意志が、完全に調和して動いた。彼らは自分たちの仕事に疲労や苦労を感じず、その時間は有益な働きと互いの交わりで満たされていた。(原稿・ﾘﾘｰｽ 10 巻 327)

アダムはエデンの園で精を出して働き、そのように行うことは彼の聖なる存在の喜びの一つであると感じた。後に彼が自分の不従順の結果としてその美しい家庭から追い出され、日々の糧を得るために固い土壌を苦労しなければならなかったとき、園の楽しい仕事とははるかに違っていたが、まさにその労働が彼の悲しんでいる魂に慰めとなり、誘惑への抵抗となった。

思慮深い労働は人類にとって健康的な強壮剤である。それは弱々しい者を力強くし、臆病な者を勇敢にし、貧しい者を富ませ、不幸な者を幸福にする。わたしたちのさまざまな責任はわたしたちのさまざまな能力に比例する。どの人も自分の個々の能力に応じて神から報いを受ける。このお方はご自分が僕にお与えになったタラントに見合う収益を期待なさる。報酬を決定するのは所有しているタラントの多さではなく、多かろうと少なかろうとそれが用いられた方法、人生における義務を行った忠実さの程度による。多く与えられたところは多く要求される。

だれでも良心的によく働くなら、それが商店、畑、説教壇どこであろうと彼が働いたその精神に応じて報いを受ける。

怠惰は人に降りかかることのできるもっとも大きなのろいである。なぜなら悪徳と犯罪がそれに続くからである。サタンは待ち伏せし、何か魅力的な見せかけのもとに……用心していない人、すなわち自分の暇な時間によってサタンに機会を与える人を驚かせ、滅ぼそうとしている。何もしていないときに人々のところへ来るときほど、サタンが成功するときはない。(健康改革者 1876 年 9 月 1 日)

屋外運動は生命維持に必須なものとして勧めなければならない。この種の運動としては土地を耕作する以上によいものはない。(ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 243)

田舎の家庭

「わが民は平和の家におり、安らかなすみかにおり、静かな休み所におる。しかし林はことごとく切り倒され、町もことごとく倒される。」（イザヤ 32:18,19）

ロトがソドムに行ったとき、彼はわが身を不義から守り、自分にならう者とするように家族の者を治める気持ちは十分に持っていた。だが彼は大失敗をした。堕落した周囲の感化は彼自身の信仰に影響を与えた。また子供たちがソドムの住民と結婚したために、彼の関心はある程度彼らの関心に結びついた。その結果はわたしたちに示されている。多くの人々はいまも同じような過ちを犯している。

あなたの家庭をソドムとゴモラからできるだけ離れたところに選ぶため、あるいはつくるために研究しなさい。大都市から離れていなさい。たとえそうしたために富裕になれなくとも、できればあなたの家庭を静かな田舎につくりなさい。いちばんよい影響のある所に住みなさい。

わたしは教会の人々に、家族を住まわせる家を求めて都会にむらがらないよう警告することを主に命じられている。父親と母親がたに、あなたがたの子供たちを自分の屋敷の中で育てるようにと告げることを主に命じられた。（ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｽﾄ・ﾎｰﾑ 144）

町から離れていなさい。都市にサニタリウムを建ててはならない。都市から田舎へ移るようにとわたしたちの民を教育しなさい。そこで彼らは小さな土地を手に入れ、自分と子供たちのために家庭を作ることができる。ロサンジェルスの町にサニタリウムを建設することに関して質問が起こったとき、わたしはこの動きに反対しなければならないと感じた。わたしはこの事柄に関して非常に重い重荷を担い、沈黙を守ることはできなかった。兄弟がた、わたしたちは天におられる主からあわれみと愛のうちにわたしたちに送られた証に聞き従うときである。

わたしたちのレストランは都市になければならない。なぜならこれらのレストランにいる働き人は他の方法では人々に接触することはできず、彼らに正しく生きる原則を教えることができないからである。そして今さしあたっては、都市にある集会所を使用しなければならないであろう。しかしまもなく都市を離れたいと望む者が離れることのできなくなるような闘争と混乱があるであろう。（世界総会冊子 1903 年 4 月 6 日）

農作技能の祝福

「あなたの羊の状態をよく知り、あなたの群れに心をとめよ。」（箴言 27:23）

都市から離れよというのがわたしの絶え間ない忠告となっている。しかしわたしたちの民が目覚めて状況を理解するのに何年もかかっている。主が、彼らに都市を離れ、田舎の静かなところで自分たちの働きをし、騒動、騒音、混乱から離れるようにと望んでおられることに気がつくのに、彼らは何年もかかっている。（特別な証 B シリーズ No.03b,14）

最上の感化力があるところに来なさい。あなたの子供たちに仕事を与え、何か手に職を習わせなさい。彼らに土地を耕すことを教えなさい。もしあなたが彼らを忙しくさせておかないなら、悪魔がそうするであろう。子供たちの思いは活発なため、実生活の重荷をになう仕事に従事させられる必要がある。彼らが自分たちのやることを拾い上げるままにさせてはならない。両親が自らこのことを監督しなければならない。（レイク・ユニオン・ヘラルド 1909 年 4 月 7 日）

心ある働き人は土を耕してみて思いがけない宝が目の前にあらわれるのに気がつく。農業や園芸においては、そこに含まれている法則に注意を払うことなしには、だれも成功することはできない。それぞれの種類の植物について、その特殊な必要を研究しなければならない。種類の相違によって、それぞれ異なった土壌と栽培が必要であり、おのおのを支配している法則にしたがうことが成功の条件である。

移植に必要な注意、すなわち毛根を密着させたり置きちがえたりしないことや、苗の保護、剪定や灌水、夜は霜を昼は太陽を防ぎ、雑草、病気、害虫を防ぎ、整枝、配列に気をつけるなど、すべてこうしたことは品性の発達についてたいせつな教訓を教えるばかりでなく、また働きそのものが発達の手段でもある。注意深さ、忍耐力、こまかいことに対する注意、法則への従順などを養う上にこのような働きは非常にたいせつな訓練となる。生命の神秘や美しい自然との絶えまない接触は、神の創造されたこれらの美しいものに奉仕することによって生ずる心のやさしさとともに、心をいきいきとさせ、品性を洗練して高める上に役立つ。そして、そこに教えられる教訓によって、働き人は、人の心をいっそうじょうずに取り扱うことができるようになる。（教育 118,119）

農業的な知恵

「なまけ者は寒いときに耕さない、それゆえ刈入れのときになって、求めても何もない。」（箴言 20:4）

クリスチャンの農夫は、貧困者がその地方に家を持ち、土地を耕作し、農作物がとれるようにする方法を教えることによって真の伝道事業をすることができる。農具の使用法、各種農作物の栽培方法、果樹の植え方、取り扱い方を教えなさい。

土地を耕作しているが、怠慢のために十分な収穫が得られない者が多い。その果樹園は適切に管理されておらず、適当な時期に種子がまかれておらず、また土地は単に表面だけしか耕作されていない。それでいて、不成功に終ると土地が悪いせいにする。よく働けば豊かな収穫が得られる土地を悪くいう偽りのあかしがたてられることがしばしばある。目先だけの計画や、わずかばかりの努力や、最善の方法に関する研究の不足は、改革を非常に必要としている。

喜んで学ぼうとする者にはすべて正しい方法を教えなさい。もし進歩した考案を聞きたくない人がいるならば、沈黙のうちにそれを教えなさい。自分の土地をりっぱに耕作し、機会あるごとに少しずつ教え、正しい方法がよいことをその収穫に雄弁に物語らせるようになさい。正しく働くならば、その土地にどれだけのことをなし得るかを実証なさい。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 168,169）

いかに耕し、いかに農耕具を用いるかをほかの人々に教育するための人が不足している。だれがこの働きをなし、青年たちや、喜んで教えを請う謙遜な人にはだれにでも、しかるべき方法を教えるであろうか。もし、より改善された考えをあなたから受けることをいやがる人があれば、果樹園を手入れし、穀物を植える際に何ができるかを示しすことによって、静かな教訓が与えられるようにしなさい。正しい方法がよいことをその収穫に雄弁に物語らせるようになさい。（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育の基礎 324）

農業がわたしたちのサニタリウムと学校の働きに結び付けられるのが神のご計画である。わたしたちの若者にはこの分野の働きから得られる教育が必要である。この面における主のご計画を実行するために努力が払われることは望ましいだけでなく、不可欠なことである。（教会への証 8 巻 228）

勤勉の習慣を発達させる

「わたしはなまけ者の畑のそばと、知恵のない人のぶどう畑のそばを通ってみたが、いばらが一面に生え、あざみがその地面をおおい、その石がきはくずれていた。わたしはこれをみて心をとどめ、これを見て教訓を得た。」（箴言 24:30-32）

あなたの力強さはあなたの家族を豊かに支えるのに十分である。もし必要ならば、朝まだ星が瞬（またたき）いている頃に起きなさい。何かを行う計画を立て、そのあとそれを成し遂げなさい。病気で寝込むことがないかぎり、どのような誓約も償いなさい。他人が当然支払いを受けるべきものを与えずにおく罪を犯すよりは、自分自身が食物や睡眠を取らない方が良い。

向上の丘は努力なくしてはのぼれない。宗教的なことであろうと世俗のことであろうと、自主的に努力をするのでなければ賞を得ることを期待するには及ばない。競走は必ずしも敏速な者のためではなく、戦いも強い者のためではないが、怠惰な手をもってとり扱う者は必ず貧しくなる。辛抱強い者、勤勉な者は自分が幸せなだけでなく、他人の幸福に大きく寄与する。能力と快適さは、熱心な勤勉さという代価を払わない限り、ふつうに手に入るものではない。……

女性が自分の仕事だけでなく家族の仕事もするとき、一夫と息子たちはともにくつろいで暖炉のそばに座っている間、彼女が薪（たきぎ）と水を運び、薪を準備するために斧までもってくるとき－彼女は自分のためにも彼らのためにも重大な過ちを犯している。神は、妻であり母親である者が家族の奴隷であるようにと計画されたことは決してない。母親は多くの場合、子供たちが家庭の重荷を分かち合うよう教育されていない一方、世話で負担がかかりすぎている。……

けっして子供たちに怠惰を助長したり許したりすべきではない。なぜならそれはまもなく習慣になるからである。……

正しい手順がすべてである。一度にひとつのことをしなさい。そしてそれを立派になし、二番目の働きを始める前に終えてしまいなさい。あなたは起床も、祈りも、食事も、定まった時間を持つべきである。多くの者は、寝床で貴重な時間を無駄にすることが生来の傾向を満足させ、そうしないためには努力を要するために、そうしてしまう。午前中に無駄にした一時間は決して取り戻すことのできない失われた時間である。（教会への証 5 巻 180,181）

手仕事における健康と尊厳

「働く者は食べることが少なくても多くても、快く眠る。しかし飽き足りるほどの富は、彼に眠ることをゆるさない。」（伝道の書 5:12）

若い男たちは、教師や書記や商人や医者や弁護士などになりたがったり、あるいはその他肉体労働を必要としないような地位を占めたいと望む。若い女性は家事を避けて、他の方面の教育を求める。どんな男でも女でも、まじめな働きによっては、決して品格が下がることはないということを学ぶ必要がある。（教育256）

有益な労働を勉強と組み合わせる人々は体操で体を動かす必要はない。そして戸外で行う仕事は屋内での労働に比べ十倍以上も健康にとって益となる。職人と農夫は共に体を動かすが、農夫の方が健康的である。自然の元気づける空気と日光だけが体組織の要求に完全に応じる。土を耕す者は、かつて体育館で実践した動きをすべて自分の労働の中に見出す。彼の運動室は広々とした畑である。天の天蓋が屋根であり、しっかりとした地面が床である。ここで彼は鋤やくわで耕し、蒔き、刈り取る。「干草を作るとき」のように、彼は刈り、熊手で集め、放りあげ、転がし、持ち上げて、積みあげ、投げおろし、踏みつけ、しまい込む。これらのさまざまな動きは体の骨、関節、筋肉、腱、神経を活動させる。彼の力強い動きは十分深くて力強い吸気と呼気を生じさせ、それが肺を広げて、動脈と静脈を躍動しながら温かい命の流れを送りつつ、血液をきれいにする。自分のすべての習慣に節制をする農夫は、たいてい健康を楽しむ。その働きは彼にとって楽しいものである。彼は食欲があり、よく眠り、そして幸せになれる。活動的な農夫の状態と対照的なのが、身体的な運動をなおざりにする学生の状態である。彼は締め切った部屋に座り、机かテーブルの上にかがみこんでいるので、彼の胸は狭くなり、肺は押され、十分に深く息を吸い込むことができない。頭脳は最大限にまで重い負担がかかり、その一方で彼の体はまるで使い道がないかのように活動していない。彼の血液は体組織をゆるやかに流れ、足は冷たく、頭は熱している。このような人がどうやって健康でいられるであろうか。（クリスチャン教育の基礎 73,74）

わたしたちのなすべきことをよく考える

「主の家はこのように荒れはてているのに、あなたがたは、みずから板で張った家に住んでいる時であろうか。それで今、万軍の主はこう言われる、あなたがたは自分のなすべきことをよく考えるがよい。」（ハガイ 1:4,5）

神はご自分の民に第一にして最高の要求をもっておられる。あなたの愛情をこのお方と天の事柄におきなさい。あなたの巻きひげは地上のどのことからも切り離されなければならない。……

神聖なご命令に従って、世から分離するとき、それがわたしたちを主に任された働きに適さない者にするのであろうか。分離がわたしたちの周りにいる人々に良いことをするのを妨げるのであろうか。否、わたしたちが天をしっかりとつかめばつかむほど、わたしたちの力はますます有用さを増す。わたしたちは、キリストのうちに宿っている霊がわたしたちのうちに宿ることができるように、型であるお方を研究しなければならない。救い主は世の地位の高い人、尊敬されている人の間では見出されず、安逸や快楽を求めている人々の間で時を過ごされなかった。このお方は、助けを必要としている者、失われ、滅びつつある者を助け、気力がくじけている者を引き上げ、捕らわれている者から圧迫のくびきを砕き、苦しむ者を癒し、悩み悲しむ者に同情と慰めの言葉を語るために働かれた。

わたしたちは主人であるお方の模範に従うようにと命じられている。わたしたちがキリストの精神にあずかればあずかるほど、同胞のためにもっとしようと努める。貧しい者を祝福し、失望している者を慰める。滅びゆく魂への愛に満たされ、天の大能者のみ足の後に従うことに喜びを見出す。

神のご要求はわたしたちの前にはっきりと示されている。答えるべき質問は「わたしたちはそれに応じるのであろうか。神のみ言葉―世からの分離―に言明されている条件を受け入れるのであろうか」である。これは一瞬のあるいは一日の働きではない。家庭の祭壇でひざまずき、口先だけの申し出によって成し遂げるのではなく、公の奨励や祈りによって成し遂げるのでもない。それは生涯を通じての働きである。わたしたちの神への献身が、生活に織り込まれた生きた原則となり、自己否定と自己犠牲に導かなければならない。それはわたしたちのすべての思想の基礎であり、あらゆる行動の泉でなければならない。これはわたしたちに世を超越させ、その汚染している感化力からわたしたちを分離させる。（サザン・ワーク 1907 年 2 月 19 日）

今日のより大きな必要

「あなたがたは多くまいても、取入れは少なく、食べても、飽きることはない。飲んでも、満たされない。着ても、暖まらない。賃銀を得ても、これを破れた袋に入れているようなものである。万軍の主はこう言われる、あなたがたは、自分のなすべきことを考えるがよい。山に登り、木を持ってきて主の家を建てよ。そうすればわたしはこれを喜び、かつ栄光のうちに現れると主は言われる。あなたがたは多くを望んだが、見よ、それは少なかった。あなたがたが家に持ってきたとき、わたしはそれを吹き払った。これは何ゆえであるかと、万軍の主は言われる。これはわたしの家が荒れはてているのに、あなたがたは、おのおの自分の家の事だけに、忙しくしている。それゆえ、あなたがたの上の天は露をさし止め、地はその産物をさし止めた。」（ハガイ 1:6-10）

神は、天使たちを、神の真理の使者になさることもおできであった。シナイ山から律法を宣言なさったように、ご自分の声で、みこころを人に知らせることもおできであった。しかし、神は無限の愛と知恵によって、人間を召して、神ご自身の共労者となし、彼らを選んでこの働きをおさせになった。

イスラエルの時代に、十分の一と任意のささげ物とは神の礼拝の儀式を維持するために必要であった。この時代に、神の民は、それ以下のものをささげるべきであろうか。……。救いの使命を他の人々に伝えるために、もっと多くのささげ物をして、感謝を表わすべきではないだろうか。福音の事業は、拡大するにつれて、昔よりは多くの資金がその維持のために必要である。それで、十分の一とささげ物の律法は、ヘブル時代におけるよりは、今日、さらにその必要が緊急度を加えた。（人類のあけぼの下巻 164）

最高の賃金をもたらす働きを持っている者に前面に来させ、彼らが受ける賃金に見合う役割を果たさせよう。限られた賃金を得ている者にもこの事柄に関心を持たせよう。あなたができることをし、あなたの什一献金のほかに何かを取っておきなさい。あなたにはこの目的のために箱があるだろうか。あなたの子供たちに、それは自己否定の箱であり、あなたが得ることができ、実際の必需品のために使う必要のないすべての一円玉や十円玉をたくわえる箱であることを説明しなさい。それは主の家のためであり、聖なる自己否定の金銭である。……これをすることにより、家族一人びとりが祝福される。（原稿ﾘﾘｰｽ 10 巻 126）

金銭の源と目的

「あなたはあなたの神、主を覚えなければならない。……あなたに富を得る力を与えられるからである。」（申命記 8:18）

もしあなたに浪費の習慣があるなら、あなたの人生からそれらを切り離しなさい。そのような習慣にふければ、あなたを永遠への破産者とする。そして節約、勤勉、まじめの習慣はこの世においてすら、あなたとあなたの子供たちにとって豊かな生まれつきの才能よりももっと良い相続分である。

わたしたちは地上では旅人、寄留者、よそ者である。神が抑制するように命じておられる欲望を満足させるために財産を費やさないようにしよう。むしろ仲間の前に正しい模範を示そう。自分の必要を制限することによって、わたしたちの信仰を適切に表そう。教会が一つとなって立ち上がり、この終わりの時代に真理の満ち満ちた光のなかを歩んでいる者として熱心に働こう。あなたの感化力が、神のご要求の神聖さを魂に印象づけるようにしよう。

もし神のみ摂理のうちにあなたに富が与えられているとき、有益な労働にたずさわる必要はない、自分には十分あるから、食い飲み、楽しむことができるという考えで、腰を据えてしまってはならない。他の者がみ事業のための収入を得ようと苦労している間、なまけていてはならない。わたしたちの財産を主のみ働きに投資しなさい。もし滅びつつある者に助けを与えるにあたって、あなたのなす分が義務よりも少なければ、あなたの怠惰は有罪となり怒りを招くことを覚えていなさい。

人に富を得る力を与えるのは神であり、このお方は、自己を満足させる財産としてではなく、神ご自身に返す財産として、この能力を与えておられる。この目的をもって財産を得るのは罪ではない。金銭は労働によって得るべきである。どの青年も勤勉の習慣を仕込まれるべきである。もし人が正直に自分の富を得ているなら、聖書は富んでいるということで人を責めはしない。すべての悪の根は不当に用いられた金銭への利己的な愛である。もしわたしたちが富を主のものと見なし、感謝をもって受け取り、感謝をもって与え主にお返しするなら、富は祝福であることがわかる。

しかし、もし富が高価な邸宅や銀行株のために蓄えられるなら、莫大な財産はどんな価値があるのだろうか。無限の神の御子がそのために死なれた一人の魂の救いと比べて、これらはどのような価値があるだろうか。（教会への証 6 巻 452,453）

わたしたちはどのように高められるか

「ヤコブは誓いを立てて言った、……またわたしが柱に立てたこの石を神の家といたしましょう。そしてあなたがくださるすべての物の十分の一を、わたしは必ずあなたにささげます」。（創世記 28:20,22）

キリストは福音を広める働きを人に割り当てられた。だがある者が宣布するために出て行く一方で、このお方は他の者に伝道を支え、全地に印刷された真理をまくために、什一と捧げ物を求めるご自分の要求に応えるよう呼びかけておられる。これが人を高める神の方法である。それはまさに彼が必要とする働きである。なぜならそれは彼の心のもっとも深い共感を起こさせ、思いの最高の能力を働かせるからである。

地上のあらゆる良いことは、人への神の愛の表現として、このお方の物惜しみをしないみ手によって、ここに置かれた。貧しい者はこのお方のものであり、宗教上のみ事業はこのお方のものである。神は人の手に財産を置かれたが、それはこのお方の聖なる賜物が、わたしたちの同胞を救うことにおいてわたしたちに任命しておられる働きをすることで、人間の水路を通って流れることができるためである。一人びとりが大いなる分野で自分に任命された働きを持っている。だが、だれも神が人に頼っておられるという考えを受け入れるべきではない。このお方がみ言葉を語られれば、すべての貧困の子を裕福にすることがおできになるのである。このお方は一瞬に人類のすべての病気を癒すことがおできになる。また、まったく牧師を用いず、天使をご自分の真理の大使とすることがおできになるのである。このお方は大空に真理を書きつけ、木々の葉や野の草花にそれを刻み込み、あるいは聞こえる声が天からそれを宣言するようにもおできになる。しかし知恵に富まれる神は、これらの方法をどれもお選びにならなかった。人は人生が自分に祝福となるためには何かすべきことがなければならないことを、このお方は知っておられた。金や銀は主のものであり、もしそうしようと思えば、それらを天から降らすことがおできになる。しかしそうする代わりに蓄えるためではなく、他の人のためになることに用いるようにと人に財産をゆだねて、ご自分の管理人となさった。主はこのようにして人を地にご自分の祝福を分配する媒体とされた。神は、人がその創造主のように品性において慈悲深く無我の者となり、ついにはこのお方と共に永遠の栄光に満ちた報いにあずかる者となることができるようにようにと慈善の組織を計画された。（教会への証 4 巻 472,473）

良心の呵責を感じる

「あなたがたの神、主がその名を置くために、あなたがたの全部族のうちから選ばれる場所、すなわち主のすまいを尋ね求めて、そこに行き、あなたがたの燔祭と、犠牲と、十分の一と、ささげ物と、誓願の供え物と、自発の供え物および牛、羊のういごをそこに携えて行って」（申命記 12:5,6）

わたしたちが什一を、宗教的な目的のためのユダヤ人の献金の基準として語るとすれば、理解して語っているのではない。主はご自分の要求を最高のものとされ、ほとんどすべてのものにおいて、与え主にお返しするよう要求されることによって、彼らはこのお方を覚えたのであった。彼らは長子の身代金、群れの初子（ういご）、収穫の初穂のために購い代を払うように要求された。貧困者のために収穫の畑の隅を残しておくよう要求された。刈り入れ時に手から落ちた物はなんであっても貧しい者のために残し、七年に一度彼らの土地は貧困者のために自然に産出することが許された。それから犠牲の捧げ物、愆祭、罪祭、七年ごとのすべての負債の許しがあった。また貧しい者への親切なもてなしと贈り物のための多くの出費もあり、彼らの所有物への課税があった。

定められた期間に、律法の規範を保つために、人々は自分の誓いを忠実に果たしたかどうかの調べられた。良心的な数少ない人々は、宗教上の利益と貧しい者の益のために彼らの全収入の約三分の一を神に返した。これらの要求は民の特別な階級からではなく全員からであった。……

このことについて、わたしたちは民として覚醒がなければならない。施しにおける自分たちの義務をなおざりにしたときに、罪悪感を持つ人はわずかしかいない。……わたしたちはこの主題に対し、新しいもっと深い罪の自覚を持たなければならない。良心が目覚め、この事柄が真剣な注目を受けなければならない。なぜなら終わりの日に神に報告がなされなければならず、このお方のご要求は清算されるからである。（教会への証 4 巻 467,468）

虚栄を永遠の価値と交換する

「わたしは日の下に一つの悪のあるのを見た。これは人々の上に重い。すなわち神は富と、財産と、誉とを人に与えて、その心に慕うものを、一つも欠けることのないようにされる。しかし神は、その人にこれを持つことを許されないで、他人がこれを持つようになる。これは空である。悪しき病である。」（伝道の書 6:1,2）

多くの者はこの世の宝に夢中になり、神の要求と他に困っている人がいることに無感覚になっている。自分の富は自分の誇のために用いるべきものだと決め、つぎつぎに家を建て、土地をふやし、贅沢な物で家を満たすのである。しかも、その周囲には悲惨、犯罪、疾病、そして死に遭遇している人がたくさんいる。このように自己奉仕に生きる者は神の性格ではなく、悪魔の性質を自らの中に発達させているのである。

こういう人が福音を必要としており、その目は物質のむなしさから離れ、永遠の富の尊さをながめる方に向けられなければならない。……

裕福でこの世を愛する人、この世を崇拝する人がキリストにひかれていくのは気まぐれな偶然的接触によるのではない。こうした人に近づくのは最も至難な場合が多く、失望したり落胆したりしない伝道精神に燃えた男女の個人的な努力を払われなければならない。……

上流階級の人の心に触れるためには生活様式や仕事の仕方をその人たちの気むずかしい趣向にあうように変更しなければならないと考える人が多い。裕福そうな外観、りっぱな邸宅、高価な衣服、設備や環境、この世的な習慣に従うこと、流行を追う社会の人為的上品さ、高雅な教養、美しい言葉づかい等は重要なことと思われている。しかし、それは誤りである。こうした世俗的な方法は上流階級の人々の心に触れる神の方法ではない。彼らの心に触れて効果があるものはキリストの福音を矛盾なく無我の精神で示すことである。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 190,191）

わたしたちは入念に自分自身に問うべきである。わたしたちは神の王国にどのような宝を確保しているのであろうか。わたしたちは神に対して富んでいるであろうか。（教会への証 3 巻 401）

あらゆる状況の中で証する

「いちじくの木は花咲かず、ぶどうの木は実らず、オリブの木の産はむなしくなり、田畑は食物を生ぜず、おりには羊が絶え、牛舎には牛がいなくなる。しかし、わたしは主によって楽しみ、わが救の神によって喜ぶ。」（ハバクク 3:17,18）

あなたは真理をみとめ、神の律法の主張を理解している。あなたは故意に罪を犯す者は命に入ることはないと知っており、なおかつ律法が世で無効にされているのを見る。あなたの義務は何であろうか。あなたは「わたしにとって何が都合が良いであろうか。何がふさわしいであろうか」と問うべきではなく、「魂を救うためにわたしは何ができるであろうか」と問うべきである。

わたしたちの前には大いなる働きがある。世は警告を受けなければならない。この働きは、わたしたちの管理に神が委ねてこられたタラントをすべて働かせるよう求める。このお方は、わたしたちが他の人の思いに感化力を働かせることができるようにと、わたしたちに能力を与えておられる。わたしたちはペンに、印刷に、声に、金銭に、そして聖化された魂の愛情にタラントを持っている。これらのタラントはみな主のものである。このお方はそれらをわたしたちに貸し与えておられ、それらを用いるに当たって、世に対するわたしたちの義務を忠実に遂行する責任を問われる。わたしたちはイエスの許に非常に近く来ることができ、このお方と交わり、自分自身の魂に休息と平安を見い出し、他の人々に真理の聖潔の美を示すことができる。

わたしたちは自分の信仰と勇気をテストするために闘争にあうであろうが、もしわたしたちが、イエスが与えたいと思っておられる恵みによって勝利するなら、それらはわたしたちを強くする。しかしわたしたちは信じなければならず、疑わないでみ約束をしっかりと掴まなければならない。それらは終わりの時代の危機と試練の間でさえ、豊かに富んだものである。……わたしたちが信仰を働かせ、信仰を語り、信仰の働きをするなら、神のみ約束はわたしたちに実証される。そしてわたしたちが自分の信仰の告白に一致して歩むとき、わたしたちも他の人々に慎重に歩むよう教えているのである。

闇を選んではならない。不信という冷たく暗い洞窟から出て、二階の座敷に入りなさい。そこであなたは神の愛の日光に浴することができ、イエスのご臨在のうちに平安と休息を楽しむことができる。（福音宣伝者 434,435）

神の奥義の管理者

「このようなわけだから、人はわたしたちを、キリストに仕える者、神の奥義を管理している者と見るがよい。」（コリント第一 4:1）

神は〔第三天使の〕メッセージが閉じる時、あるいは猶予期間が終わる時をわたしたちに明らかにしてはおられない。明らかにされたことをわたしたちは自分自身と子供たちのために受け入れる。しかし、全能者の会議において秘密にされてきたことを知ろうとしないようにしよう。見張り、働き、待つこと、そして滅びようとしている人々の魂のために毎瞬間働くことはわたしたちの義務である。わたしたちは絶えずイエスのみ足の後に従って歩み、このお方の方針に従って働き、神の多種にわたる恵みの良き管理人としてこのお方の賜物を分配し続けるべきである。サタンはこの時代のためのすばらしい真理を無効にするために、イエスから毎日学んでいない者がいれば、自分自身の作りだした特別なメッセージを与えようと待ち構えている。

わたしのところに、恩恵期間が閉じる時について何か特別な光をもっているかを尋ねる手紙を受け取った。わたしが担うべきメッセージはただこれだけである、とわたしは答える。すなわち、今は昼の間に働くべき時だということ、なぜなら、だれも働くことのできない夜が来るからである。いま、まさに今こそ、わたしたちが見張り、働き、待つべき時である。主のみ言葉は万物の終わりが間近であることを明らかにしている。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1巻 191）

わたしたちが担っているメッセージは、宣布することを畏れる必要のあるようなものではない。その擁護者は、それを覆おうとしたり、その起源や目的を隠そうとしたりすべきではない。神に対して厳粛な誓いをした者として、またキリストの使命者、恵みの奥義の管理人としての任命を受けてきた者として、わたしたちは神の勧告全体を忠実に宣言する義務の下にいる。

わたしたちは、自分たちを世から分離させ、今日あるを得させてきた特別な真理を、少しでも目立たないようにすべきではない。なぜなら、それらは永遠の利益に満ちているからである。神はわたしたちに今起こりつつある事柄に関して光を与えてこられた。そして筆舌をもってわたしたちは世に真理を宣布すべきである。しかし、わたしたちの言葉を実りあるものとするのは、ただ魂のうちにあるキリストの命であり、聖霊によって与えられる活動的な愛の原則だけである。（福音宣伝者 288）

神の金銭の管理者

「この場合、管理者に要求されているのは、忠実であることである。」（コリント第一 4:2）

感謝の愛に動かされた、全き献身と慈善は、最も小さな捧げ物や、自発的な犠牲に、神聖な香を与え、その賜物を価をつけらることのできないほど価値のあるものとする。……

〔キリストは〕わたしたちをご自分につける自発的な僕として結びつけるために、ご自分の苦難の命と流された血のうちにわたしたちに報いを提供された。わたしたちの持っているあらゆる良いものはすべて主から貸し与えられたものである。このお方はわたしたちを管理者とされた。信仰と愛のうちに差し出されたわたしたちの最も小さな捧げ物、もっともつつましい奉仕は、魂を主人の奉仕に勝ち取り、このお方の栄光を促進するために捧げられた賜物となることができる。キリストの王国の利益と繁栄が、他のすべての考慮すべきことに勝る最高のものとなるべきである。自分たちの楽しみや利己的な関心を自分の生活の最高の目的とする者は、忠実な管理者ではない。

他の人々に善を行うために自己を否定し、自分自身と自分の持っている者をすべてキリストの奉仕にお捧げする人々は、利己的な人が求めている幸福が虚しいことを悟る。わたしたちの救い主は、「あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない」と言われた（ルカ 14:33）。愛は「自分の利益を求めない」（コリント第一 13:5）。これはキリストの生涯を特徴づけた無私の愛と慈善の実である。わたしたちの心のうちにある神の律法は、わたしたち自身の利益を、高くて永遠の考慮すべき事柄に服従させる。わたしたちはキリストにまず神の王国と神の義を求めるように命じられている。これがわたしたちの第一にして最高の義務である。わたしたちの主人は、ご自分の僕たちに地上に宝を蓄えてはならないとはっきり警告された。なぜなら、そうすることによって彼らの心が天の事柄よりも地上のことにあるからである。ここで、多くの哀れな魂が信仰の破船にあった。彼らはわたしたちの主の表現されたご命令に真っ向から反対の道へ行き、金銭への愛着が自分たちの生活の支配的な情欲となることを許してしまった。彼らは財産を獲得する努力において不節制であった。……

クリスチャンは自分たちが主人の僕であることを忘れている。彼ら自身も、彼らの時間も、彼らの持っているすべてのものは、このお方に属するのである。（教会への証 3 巻 397,398）

与えることはより大きな喜びをもたらす

「あなたがた自身が知っているとおり、わたしのこの両手は、自分の生活のためにも、また一緒にいた人たちのためにも、働いてきたのだ。わたしは、あなたがたもこのように働いて、弱い者を助けなければならないこと、また『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべきことを、万事について教え示したのである」。」（使徒行伝 20:34, 35）

もし資金を持っている人が自分たちの費やす一ドル一ドルに対して神への報告責任があることを自覚するなら、彼らの必要だと思っていた物はずっと減ることであろう。もし良心が生きているならば、それは食欲や誇りや虚栄や娯楽への愛着などに充当された不要な出費を証し、主のみ事業に捧げられるべきであった主の金銭を浪費したことを報告することであろう。（教会への証 3 巻 401）

キリストの十字架の原則は、信じるすべての人を、自己を否定し、他の人々に光を与え、光を広めるために自分たちの資金を捧げるという重い義務のもとへ連れて行く。もし、彼らが天とのつながりのうちにいるならば、彼らは御使たちとの調和のうちに働きに携わるのである。

世俗の原則は、この世の朽ちるものをできる限り手に入れることである。儲ける利己的な愛が、彼らの生活を支配している原則である。しかし、もっとも純潔な喜びは、富みの中にも、いつも貪欲が切望しているところにでもなく、満ち足りた心が支配しているところ、また自己犠牲的な愛が原則として支配しているところに見出されるのである。放縦にふけって自分の人生を送り、いつも不平に満ちた心をもっている人々が何千といる。彼らは利己心の犠牲者であり、自分たちの思いを放縦で満足させようとむなしい努力をして不満を抱いている。しかし、不幸が彼らの表情そのものに刻印されており、彼らの道は良い行いの実りがないために、その背後は砂漠なのである。

キリストの愛がわたしたちの心を占め、わたしたちの生活を支配するのに比例して、貪欲、利己心、安逸を愛する心は克服され、自分たちがその僕であると主張しているキリストの御旨を行うことがわたしたちの喜びとなる。そのときわたしたちの幸福は、キリストの愛によって促された自分たちの無我の行いに比例するようになる。（教会への証 3 巻 382）

自己否定の模範を生きる

「兄弟たちよ。あなたがたはわたしたちの労苦と努力とを記憶していることであろう。すなわち、あなたがたのだれにも負担をかけまいと思って、日夜はたらきながら、あなたがたに神の福音を宣べ伝えた。」（テサロニケ第一 2:9）

パウロ自身の生活が彼の宣べ伝える真理を例証していたため、彼の説教には説得力があった。（患難から栄光へ下巻 209）

神はあなたが起き上がって、障害物を乗り越える力を持つように望んでおられる。簡単に失望してはならない。もし必要であれば、使徒パウロがしたように、キリストがそのために死なれた魂のために深い関心を感じて弱さを忘れ、疲労の中で、骨折りの中で、見張りつつ、働きなさい。（教会への証 2 巻 628）

神の御子のへりくだりの生涯に注目しなさい。このお方は「悲しみの人で、病を知っていた」（イザヤ 53:3）。このお方の屈辱、ゲッセマネでの苦悩をながめて、何が自己否定であるかを学びなさい。わたしたちは欠乏に苦しんでいるであろうか。天の大君であられるキリストも苦しまれたのである。しかし、このお方の貧しさはわたしたちのためであった。わたしたちは富む者のうちに地位を占めているであろうか。このお方もそうであった。しかし、このお方はわたしたちのために貧しくなることに同意された。それはわたしたちがこのお方の貧しさを通して富む者となるためであった。キリストのうちに、わたしたちには具現化された自己否定がある。このお方の犠牲はただ単に天の王宮を去られたことにあるのでも、悪人たちに犯罪者として裁判にかけられて有罪を宣告されたことにあるのでも、また悪党として死に渡されたことにあるのでもなく、世の罪の重さを担われたことにある。キリストの生涯は、わたしたちの無関心と冷たさを譴責する。わたしたちは終わりの時、すなわちサタンが自分の時が短いことを知って、大いなる怒りをもって、地に下ってきた時に近い。彼は滅びる人々のうちにあらゆる不義の欺瞞をもって働いている。わたしたちの偉大な指導者によって、戦いを精力的に前進させるよう、それはわたしたちの手にまかされている。わたしたちはもし目覚めていればできることを 20 分の 1 もしていない。安逸を愛し、わたしたちの救い主がそのご生涯に模範を残された自己否定の精神に欠けているがゆえに、働きが遅れている。（教会への証 3 巻 407）

もし不信者たちがわたしたちの働きと生涯に、滅びようとしている魂を救うための献身と自己否定を見るならば、わたしたちの公言している真理の現実性を印象づけられる。受ける人を聖化する真理は、彼らにその印象を残すのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1909 年 9 月 16 日）

盗んではならない！

「盗んだ者は、今後、盗んではならない。むしろ、貧しい人々に分け与えるようになるために、自分の手で正当な働きをしなさい。」（エペソ 4:28）

悩みの時はわたしたちの目の前にある。そのときには厳しい欠乏のために、神の民は自己を否定し、命を支えるのに足りる分だけを食べることが要求される。しかし、神はその時のためにわたしたちを準備させてくださる。その恐るべき時に、わたしたちの欠乏は、神がご自分の強める力を与え、ご自分の民を支えてくださるこのお方の好機となる。しかし、今は神は彼らが自らの手で働くことを要求しておられる。それは良いことであって、神が彼らを繁栄させられるときに蓄えをなし、真理のみ事業を支えるために自分たちの分を果たすようにと要求しておられる。（教会への証 1 巻 206）

ある人々は、外国に伝道者を送り、真理を出版し、それを世界中に秋の木の葉のようにまくために用いられる金銭を求める呼びかけに耳をふさぐ。そのような人々は、あなたに自分たちが死ぬときには惜しみなく捧げるよう取り計らったと告げることによって自分たちの貪欲の言い訳をする。彼らは自分たちの遺言の中で神のみ事業を検討した。そこで、彼らは什一と献金において神から盗み、貪欲の生涯を生き、そして自分たちの遺言の中で神が彼らに貸し与えられたものからわずかな一部を神にお返しし、その一方真理には何の関心もない親戚には非常に大きな割合が充てられるのである。これは最悪な種類の泥棒である。彼らは神の当然の権利であるものを、自分たちの一生を通じてばかりでなく、死においてすら、神から盗むのである。（教会への証 4 巻 479, 480）

＿＿教会には、クリスチャンの堅実さという恵みを培い、信仰の人になるために成長しているべき青年たちがいる。彼らは堅固で、ゆるぎなく、真理に根ざし、また確立する者となるべきである。教会は彼らが与えるようにと神が計画された助けを、まさに必要としている。このお方のみ名を公言する人々は、自分たちの力をこのお方に十分に完全にお捧げしてこなかった。かえって彼らはある程度サタンの奉仕へそれらを譲り渡してきた。このような人々はこれまでも、また今もなお神から盗んでいるのである。タラントを委託された不忠実な管理人のように、彼らは神の賜物を世において隠してきた。（教会への証 5 巻 115, 116）

わたしたちは一点一画においても神から盗んでいないことを確認しよう。なぜなら、多くのことがこの問題にかかわっているからである。（教会への証 9 巻 246）

与えるように召されている管理人

「あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである。」（ペテロ第一4:10）

すべてのものは神のものである。人はこのお方のご要求を無視するかもしれない。このお方が彼らに祝福を豊かにお与えになる一方で、彼らはこのお方の賜物を自分自身の利己的な満足のために用いるかもしれない。しかし、彼らは自分たちの管理職のために会計報告を出すよう要求されることになる。

管理人は自らの利害を自分の主人と同一にする。彼は管理人の責任を受け入れる。そして、自分の主人に代わって行動し、もし自分の主人が取りしきってたならば、なすはずのことをするのである。（教会への証 9 巻 246）

主はご自分に従う者たちが、自分たちの財産を自分で施すことのできるうちにそうするよう望んでおられる。ある者は、「わたしたちは実際に自分自身のものだと思っているものを何もかも手放さなければならないのか」と尋ねるかもしれない。わたしたちは、今そうするように要求されないかもしれないが、キリストのためにそうすることを望んでいなければならない。このお方のみ事業の前進のために資金が必要とされているときには、自分たちの所有物を惜しみなく用いることにより、それらが絶対的に主のものであることを認めなければならない。（教会への証 4 巻 479）

もし彼らが、財産に執着し、自分たちの義務について主に尋ねることをしないならば、主は彼らに義務を知らされない。そして、彼らは財産を持っていることを許される。そして、悩みの時に、それは彼らを押しつぶす山のように彼らの前にあらわれるだろう。そして彼らは、それを処分しようとするのであるが、もうそれはできないことをわたしは見た。わたしはある人々が次のように嘆くのを聞いた。「働きは衰微していた。神の民は真理に飢えていた。それなのに、われわれはその欠乏を満たそうとしなかった。今、われわれの財産は役に立たない。ああ、われわれはそれを手放して、天に宝を蓄えておいたらよかったのに。」わたしは、犠牲が増加せず減っていき、燃えつきるのを見た。また、神はすべての神の民が同じ時に、財産を処分することを望まれないことを見た。もし彼らが喜んで聞き従うことを望むならば、神は必要に応じて、いつ、またどれだけ売るべきかを示してくださるのである。過去において、再臨運動を支えるために、財産を処分するように要求された人々があった。またその反面、必要な時が来るまで財産を持っていることを許された人々もある。働きが必要とする時が来るならば、売ることが彼らの義務なのである。（初代文集 128,129）

わたしたちの主にお会いする準備をする

「そこで主が言われた、主人が、召使たちの上に立てて、時に応じて定めの食事をそなえさせる忠実な思慮深い家令は、いったいだれであろう。主人が帰ってきたとき、そのようにつとめているのを見られる僕は、さいわいである。」（ルカ12:42, 43）

主は、心が世の思い煩いに満たされることの危険をわたしに示された。わたしはある人々が他の刺激的な本を読んで、現代の真理と聖書を愛する心から引き離されていくのを見た。また、他の人々は、飲食や衣服のことで心が悩みと苦労に満たされていた。ある人々は、主が来られるのははるか遠い先のことだと思っている。時は、彼らが期待したよりは数年長く続いた。そのために彼らは、時がさらに数年続くものと考える。このようにして、彼らの心は、現代の真理から引き離されて世に従っていく。わたしはこうしたことのなかに大きな危険を見た。もしわれわれの心が他のことで満ちているならば、現代の真理は心からしめ出されて、額には生ける神の印を押す場所がない。イエスが至聖所におられる時は、ほとんど終了し、時は、あとわずかしか続き得ないことをわたしは見た。われわれの空いた時は、聖書の研究のために費やさなければならない。この聖書が、最後の日にわれわれを裁くのである。

愛する兄弟姉妹がた、神の戒めとイエス・キリストのあかしを常に心に抱いていよう。そして、それに世の思いと煩いを閉め出していただこう。寝る時も起きる時もこれを瞑想しよう。人の子の来られることを常に考えて生活し、すべての行動をとろう。印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である。（初代文集 129,130）

牧師たちは眠っている。信徒たちは眠っている。そして世は罪のうちに滅びつつある。神がご自分の民を助けて、永遠の世界の境界線にいる男女として目覚めさせ、歩ませ、働かせてくださるように。まもなく恐るべき驚きが世の住民の上におとずれる。突然、力と大いなる栄光をもって、キリストが来られる。そのとき、このお方にお会いする準備をする時間はない。今こそ、わたしたちにとって警告のメッセージを与えるべき時である。（教会への証 8 巻 37）

責任に目覚める

「あなたの会計報告を出しなさい。」(ルカ 16:2)

恩恵期間は今にも閉じようとしている。天ではまもなく「事はすでになった」との命令が出される。……敵はすべての魂に対して命のゲームをしている。彼はわたしたちからすべての霊的な性質のものを取り除くために働き、キリストの尊い恵みの代わりに、わたしたちの心に肉の性質の邪悪な特質―憎しみ、邪推、嫉妬、世への愛着、自己愛、娯楽への愛着、そして持ち物の誇り―をつめこもうとしている。わたしたちは滅びる人々のうちにあらゆる不義の欺瞞をもって働き、侵入する敵に対して防壁を築く必要がある。なぜなら、わたしたちが見張り、祈っていなければ、これらの悪が心に入り、良いものをすべて締め出してしまうからである。

神のみ言葉を信じると公言する多くの人々は、敵の欺瞞的な働きを理解していないように見える。彼らは時の終りが近いことを悟らない。しかし、サタンはそれを知っている。そして人が眠っている間に、彼は働く。肉の欲、目の欲、持ち物の誇りが、男女を支配している。サタンは神の民の間でさえ働き、不一致を生じさせている。利己心、堕落、またあらゆる種類の悪が心をしっかりととらえている。多くの人によって尊い神のみ言葉が無視されている。小説や物語が注意をうばい、思いを魅了している。想像力をかきたてるものは熱心にむさぼるが、その一方神のみ言葉はわきにおかれている。ユダヤ国家がキリストを拒んで、強盗を自分たちに与え、命の君を十字架につけるよう要求したのは、彼らが神のみ言葉を見過ごしたからであった。そしてこの終りの時代に、自称クリスチャンは、同じ罪を犯している。彼らは自分の思いがほとんど重要性のない事柄に没頭し、その一方永遠の真理をなおざりにすることを許すがゆえに、秤で測られて、その量が足りないことを発見されるのである。高め、聖化し、精練し、人を不死の最後の一触れにふさわしいものとする神の真理は、重要性の劣る事柄のためにわきにおかれている。ああ、この盲目が過ぎ去り、サタンが男女のあいだで成し遂げつつある働きを、当人たちが悟ればよいのだが!(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1900年1月2日)

最終試験のための教育

「多くの書を作れば際限がない。多く学べばからだが疲れる。事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである。」（伝道の書 12:12–14）

各時代を通じて、人間の好奇心は、人が知識の木を探し求めるように導いてきた。そしてしばしば人が自分はもっとも重要な実を摘み取っているのだと思っているとき、まさに探求していたときのソロモンのように、彼らは自分たちのために神の都の門を開く聖潔の科学と比較するとき、それがことごとくむなしく無に等しいことを見出す。学校教育のために重要不可欠だと思われてきた多くの書物には、誤った原則が含まれており、もしそれが実生活に持ち込まれるなら、生徒たちを誤った道へ導き、神への献身からそらすことになる。……

人間の野心は、人に自己称揚と主権をもたらすような種類の知識を探し求めてきた。こうしてアダムとエバの上に、神の抑制が真二つに裂けるまで、サタンによって働きがなされ、神が彼らに与えることを許されなかった知識―不法の結果の知識―を持つ者となるように、偽りの教師の下での彼らの教育が始まった。そのとき以来、人の子らは悪の実際的な知識を持つようになった。しかし、キリストはご自分が彼らのために、葉が国民をいやす命の木を植えられたことを示すために世に来られた。このお方は人のうちに神の道徳的みかたちを回復し、わたしたちの精神力を高め、高尚にするために来られたのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1898 年 11 月 27 日）

生徒たちに最後の大きな試験に耐える準備をさせ、国内外での伝道の働きにふさわしい者とするために最も必要とされている研究の要点そのものが、なおざりにされている。今必要とされている教育は、すべての機能を神の御霊の支配下におくことを生徒たちに教えることによって、彼らを実際的な伝道の働きのためにふさわしいものとする教育である。最高の価値を持つ研究書は、教師の中の教師であられるキリストの教えを記した書物である。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1907 年 11 月 7 日）

だまされやすい者となってはならない

「まちがってはいけない。悪い交わりは、良いならわしをそこなう。」（コリント第一15:33）

家庭で宗教的な教えの恩恵を受けてきて、社会の悪徳を知らない生徒たちは、思いがより劣った型にはめられ、精神的教養や宗教的訓練のための利点が非常に限られてきた者たちと、しばしば最も親しくなる。そして彼らはこの種類の社会に混じることによって、また高める代わりにより低くし、道徳心を堕落させる傾向のある雰囲気を呼吸することによって、自分たちの仲間と同じ低い水準にまで沈む危険性がある。生徒の大部分の楽しみは、自分たちのひまな時間に、楽しく過ごすことである。そして無垢で純潔な家庭を出た者たちの非常に多くが、学校での交わりによって堕落し始める。（教会への証３巻155）

あなたの息子たちは無力な赤ん坊のときとまったく同様に、少年時代も青年の時も母親を必要としている。あなたの娘たちもまた愛情深いクリスチャンの母親の油断のない後見を必要としている。彼らが不適切な交わりによって堕落させられるままにほうっておいてはならない。子供たちは教えられ、安全な道に導かれ、悪から守られ、親切によって勝ち取られ、勤勉な訓練によって善行のうちに確立される必要がある。救い主はすべての魂のうちに、それが帯びる神のみかたちのゆえに、価値と尊厳をお認めになる。このお方はあなたの子らが永遠の命という賜物を得ることができるために死なれたのである。このお方は彼らを神聖な同情をもってご覧になる。彼らの魂は永遠の命へと救われることができる。そして彼らは他の人の魂とまったく同様に尊いのである。あなたは自分自身の戸の前に面倒を見るべき小さな一角の土地がある。そして神はあなたの手に任されたこの働きの責任を問われる。熱心な祈りと研究を通して、あなたは自分の家庭で子供たちのさまざまな気質を学び、注意深く彼らの態度に気づいて、賢明になることができる。あなたは家庭で小さな学校を持ち、そこで自分が教師になることができる。もしあなたが主の方法を理解し、それを守るための知恵を求めるならば、このお方は知恵と恵みを与えてくださる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1891年９月15日）

悪い本は火に

「それから、魔術を行っていた多くの者が、魔術の本を持ち出してきては、みんなの前で焼き捨てた。その値段を総計したところ、銀五万にも上ることがわかった。」（使徒行伝 19:19）

〔エペソの人々は〕共に魔術の本、すなわちアルテミスの魔術の象徴や、その魔術の秘密を記した高価な本を持ってきて、それらをみんなの前で焼き捨てた。このように払われた犠牲を見積もったところ、銀五万、およそ一万ドルに等しいことがわかった。

これらのエペソ人の改心は、いつでも本物の改心に続く結果を伴っていた。自分たちの魔術の本が偽りであり、有害であることを悟ったとき、彼らはそれらを売って、他の人々の道に誘惑を置くようなことをしたくなかった。彼らは個人的に膨大な犠牲を払って、ただちに占いの記録を焼き捨てた。真理の力は、人間の偏見、好きな楽しみごと、そして金銭への愛着に打ち勝った。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1882 年 5 月 18 日）

親愛なる青年方よ、物語の載っている雑誌を読むのを止めなさい。すべての小説を捨てなさい。パウロの時代、エペソで改心した人々は自分たちの魔術の本を焼き捨てたのである。わたしたちは自分たちの家からすべての物語雑誌や愚かしい写真―サタンの代理者に由来する象徴―の載った出版物を一掃するのがよい。青年たちは自分たちの思いをこのようなもので汚すわけにはいかない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1906 年 7 月 19 日）

一つ一つの家庭におけるすべての安っぽいくずのような読み物が焼き捨てられればよいのに！わが親愛なる若い友人がたよ、あなたを誘惑して作り話を読みふけらせるようなものはすべて焼き捨てることほど、良い結果をもたらすことはない。（ｶﾅﾀﾞ・ﾕﾆｵﾝ・ﾒｯｾﾝｼﾞｬｰ 1907 年 9 月 3 日）

キリストの弟子たちは魔術の本を焼き捨てたであろうか。彼らは自分たちの原則と生活習慣に決定的な変化をもたらしたであろうか。彼らは自ら世の魔力より分離したであろうか。……神は禁じられた道を歩むことを選ぶ人々を守るようにとご自分の御使たちに責任をお与えになることはない。……

わたしたちはキリストに従う人々に尋ねたい、「あなたは魔術の本を焼き捨てましたか」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1882 年 5 月 18 日）

不信者の科学を遠ざける

「テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。そして、俗悪なむだ話と、偽りの『知識』による反対論とを避けなさい。ある人々はそれに熱中して、信仰からそれてしまったのである。」（テモテ第一 6:20, 21）

わたしたちは絶えず地質学やそのほか誤って科学と呼ばれているが、真理の片鱗すらない分野にかかわる詭弁に対して防御する必要がある。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1898 年 3 月 1 日）

神は人間の知力を啓発し、芸術や科学の発見において世界に光の洪水を注いでこられた。しかし、これらを単に人間の見解からしか見ない人々は最も確実に誤った結論へ至る。誤謬や懐疑論や不信心のとげは、哲学や科学という衣で覆われることによって隠される。サタンは生ける神から魂を勝ち取るこの巧妙なやり方を考案してきた。（健やかな生活 293）

高尚な資質を持ち、神がご自分のみ事業においてお用いになることのできるはずの人が大勢いる。しかし、サタンの惑わしの力が呪文のように彼らの上に投げかけられてきた。誤って科学と称されているものが彼らを真の宗教の基礎そのものから論じそらせてしまう。彼らの感覚はあまりにも混乱させられ、御霊と神のみ言葉の証に疑問をさしはさむのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 12 月 29 日）

日々は大いなる困惑と混乱が起こる時に急速に近づいている。サタンは御使の衣をまとって、可能であれば選民をも惑わそうとする。多くの神々や主々が起こるであろう。あらゆる教理の風が吹くであろう。「偽りの知識（科学）による反対論」に最高の敬意を払ってきた人々はそのとき指導者とはならない。知性や才能やタラントに信頼をおいてきた人々はそのとき一般大衆の頭として立つことはない。彼らは光と歩調を合わせなかった。自ら不忠実であることを証明してきた人々が、そのときに群れを任されることはない。最後の厳粛な働きにおいて、偉大な人物はほとんど携わることがない。彼らは自己満足で神から独立しているため、神が彼らをお用いになることができないのである。主は忠実な僕を持っておられる。彼らはふるいとテストの時に、見られるようになる。今は隠されているが、バアルにひざをかがめてこなかった尊い者たちがいる。（教会への証 5 巻 80, 81）

どの知恵をわたしは優先するか

「だれも自分を欺いてはならない。もしあなたがたのうちに、自分がこの世の知者だと思う人がいるなら、その人は知者になるために愚かになるがよい。なぜなら、この世の知恵は、神の前では愚かなものだからである。神は、『知者たちをその悪知恵によって捕える』と書いてあり、更にまた、『主は、知者たちの論議のむなしいことをご存じである』と書いてある。」(コリント第一 3:18–20)

主の民だと公言する人々によって世の知恵があまりにも高く評価され、上よりの知恵はあまりにも求められていない。人々はクリスチャンの教理の知識は持っているかもしれないが、なおクリスチャン経験はほとんど理解していない。多くの人々は世俗の事柄においては鋭敏で、かしこく、敏速であるが、その一方神の奉仕においては、ほとんど関心も機転も精力も表さない。彼らは自分たちの鋭さや利口さを、サタンの考案物を見抜くために見張り、いかに敵に勝つことができるかを研究するために働かせない。彼らは神のみ事業を前進させるために賢明な計画を立て、最も熱心で均整の取れた努力を払うために自分たちのあらゆる力を結集しない。世俗的な現世のことには働かせる知恵が、霊的で永遠の事柄にはほとんど捧げられることがない。この方法によって、能力のある人は自分たちが霊的であるよりはむしろ肉的である証拠を示しているのである。

すべての人は、職業が何であれ、神のみ事業を第一の関心事とすべきである。彼は主の働きを前進させるために単に自分のタラントを働かせるばかりでなく、自分の能力をこの目的のために培うべきである。多くの人々は、自分が世の中で成功した働き人になれるように商売や職業の知識習得のために数ヶ月あるいは数年をつぎこむ。それでいながら、彼は主のぶどう畑において、成功をおさめる働き人にするはずのこれらのタラントを培うために特別な努力を払わないのである。彼は自分の力をゆがめ、自分のタラントを誤用してきた。彼は自分が天の主人を軽蔑していることを示してきた。これは神の民だと公言している者の大きな罪である。彼らは自分自身に仕え、世に仕えている。彼らは利口で成功を納めた資産家という名を持っているかもしれないが、神がその奉仕のために彼らにお与えになったタラントを用いることによって増し加えることをなおざりにした。世俗の機転は、働かせることによって強くなっているが、霊性は不活動を通して弱くなっている。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 1 月 1 日)

どのように建てているか用心する

「どういうふうに建てるか、それぞれ気をつけるがよい。」（コリント第一 3:10）

あなたがたはどのように建てているかに関して神に会計報告を出さなければならない。なぜなら、あなたがたが自分の働きに成功することができるよう、すべての備えがなされてきたからである。ご自分の神聖な指でユダヤの境界線を引かれたお方、宮がどこに建つべきか正確な場所を指定されたお方、ユダヤ人の教会と聖所の奉仕のために計画を実行されたお方が、ご自分の戒めを守るご自分の民、すなわちご自分の選ばれた民を、偶然な経験や事故に、また闇の中でつまずくがままに放っておかれるであろうか。このお方が最も尊い光を委ねられた人々、すなわち第三天使のメッセージを委任された人々が、いにしえの民ほどこのお方のみ摂理の導きを持たないということがあるであろうか。

ああ、教会が目覚めるならば！ああ、この時代のための真理を公言するすべての人々が真理を通して聖化され、神のご計画を認めて、世界に光を伝えるという自分たちの個々の責任を理解することができるならば。真理の種は新しい創造へと芽を出し、魂は神へと改心させられる。

何をなし得るかを面前にするとき、教会は考え続けるのであろうか。あるいは神のあわれみ深いみ摂理を通して自分たちに与えられている責任と栄誉を感じて、自分たちが受け継いだ信任と、現代の光の有利性を集め、今わたしたちの前にあらわれている緊急時に立ち上がる必要性を感じるであろうか。世界はわたしたちが想像する以上に、大きな関心をもってわたしたちの動きを見ている。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1893 年 2 月 21 日）

あなたがたがどのように建てているか、どのような材料を建物に持ち込んでいるかに注意しなさい。あなたがたが今形成している品性が、永遠に続くのである。

イエスにあなたの思い、あなたの心、あなたの愛情を所有していただき、家庭の義務、自己否定の小さな行為、親切な行いを良心的に行いながら、短い時を勤勉に用いつつ、小さな罪に対しては注意深く見張り、小さな祝福には感謝の心を持ち続けて、キリストが働かれたように働きなさい。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1886 年 11 月 3 日）

品性の建造物を積み上げる

「この土台の上に、だれかが金、銀、宝石、木、草、または、わらを用いて建てるならば、それぞれの仕事は、はっきりとわかってくる。すなわち、かの日は火の中に現れて、それを明らかにし、またその火は、それぞれの仕事がどんなものであるかを、ためすであろう。」(コリント第一 3:12,13)

代価を数えて、永遠のために建てたいと望む人々は、自分たちの建物に良い材料を持ち込まなければならない。もし彼らが腐った材木を受け入れるなら、すなわちもし彼らが品性の欠陥に満足しているなら、建物は崩壊の運命にある。すべての者は、自分たちがどのように建てているか注意しよう。誘惑の嵐が、建物に押し寄せるであろう。そして堅く忠実に建築されていなければ、それはテストに耐えないのである。……

わたしたちはすべての人の心を恐れさせるべき危険な時代に生存している。多くの人々の思いが懐疑論の当惑を通して迷っているのを見る。この原因は、無知、誇り、そして欠点のある品性である。謙遜は堕落した人類にとって学ぶのが難しい教訓である。神と罪人、聖なる律法の違反、そしてキリストを通しての許しに関する主題について明らかにされた真理に反対して立ち上がる何かが、人間の心の中にある。

わが兄弟姉妹方、老若の方々、あなたに暇な時間があるとき、聖書を開いて、その尊い真理を思いに蓄えなさい。働きに携わるとき、思いを守って、神にとどまるようにし、少なく話し、多く瞑想しなさい。次のことを覚えていなさい、「あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう」(マタイ 12:36)。あなたの言葉を選びなさい。これが魂の敵に対して戸を閉じることになる。祈りをもってあなたの一日に入り、神の御目の前にいるかのように働きなさい。……もしあなたがよい勧告に背を向けて、クリスチャンだと公言していながら、宗教的なことに思いを向けさせない傾向があると疑わしく思うような人々と交わることを選ぶなら、あなたはまもなく彼らに似た者となる。(教会への証 4 巻 588, 589)

日ごとにわたしたちは改心する必要性を悟る必要がある。キリストと世の間のバランスを取ろうとして区別の境界線上に立ってはならない。主に贖われた人々のためにしかれた道にとどまっていなさい。(ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1900 年 10 月 25 日)

目ざめて熱心になる

「目ざめて身を正し、罪を犯さないようにしなさい。あなたがたのうちには、神について無知な人々がいる。あなたがたをはずかしめるために、わたしはこう言うのだ。」（コリント第一 15:34）

惜しげもなく多くの信者によって不必要なもののために費やされた金銭は、今にも滅びようとしている魂を勝ち取る働きに与えられるべきである。わたしたちの民が神と共に働く共労者となる必要性を感じるべき時である。自己否定と自己犠牲は、この時代に非常にふさわしい。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1909 年 9 月 16 日）

ノックスがスコットランドのために神のみ前に嘆願したときに持っていた関心を持っているなら、わたしたちは成功する。彼は、「主よ、わたしにスコットランドをください、さもなければわたしは死にます」と叫んだ。そしてわたしたちが働きに取りかかるときに、神と格闘し、「わたしは魂を得なければなりません。決してこの苦闘をやめません」と言うならば、神がわたしたちの努力を、恩寵をもって見て下さることを見出すのである。このお方はあなたの伝道の結果としてご自分が魂をお与えになっても、それであなたが誇ったり、得意になったりしないのをご覧になる。あなたは一瞬たりともだれか他の人がこれらの魂のための功績を得ると感じるような立場にいることはない。そうではなく、あなたは彼らが救われることを神に非常に感謝し、日夜このお方への賛美があなたの心とあなたの唇にあるのである。神がご自分の働きにおいて強力な器となさるのはこのような人である。わたしはこれらの点を真剣に感じる。

彼らと交わってきた人々、どのように神のみ働きをなすか学ぼうとしている人々は、これらの働き人たちに自分たちがどのような教育を与えているかについて、自分たちの魂にたえず重荷を感じるべきである。彼らがこの働きにおいて自分たちと関わっている人々にどのような種類の型を与えているかは、永遠が語るようになる。もし彼らがパウロの持っていた霊と力を持っているならば、すなわち、すべての人をイエス・キリストのうちに完全なものとして提示するために力強く働いている神の御霊を持っているなら、彼らはつねに教訓と模範によって、最も聖なる信仰のうちに彼らに建てさせようと努める。この型を受けた働き人たちは、今度はそれを他の人々に与えるのである。感化力は実に永遠に至るほど遠大なものである。（説教と講和 2 巻 45,46）

男女を闇の中にいる人々のために働くために新しい伝道地に送り出すことほど、自己犠牲的な熱心さを男女のうちに呼び覚ますものはほかにない。（教会への証 8 巻 147）

保証された知恵

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。」(ヤコブ 1:5, 6)

わたしたちは自分自身の小ささや神にまったく依存していることを自覚するときに初めて霊的な知識において前進する。しかし、神のみ言葉が何と言っているかを研究するために教えられやすい祈りの精神をもって聖書の許へ来るすべての者は、神聖な啓発を受ける。一見難しく不明瞭に見えるが、このようにそれらの理解を求める人々には神が明瞭に単純にして下さることが多くある。

教育と教養によって知的能力を培ってきた人々が、聖書のある聖句を理解するのに失敗する一方で、教育を受けておらず、理解力が弱く見え、思いの訓練を受けていない人々が意味をつかみ、前者が神秘的で重要でないといってやり過ごすものの中に力と慰めを見出すことがある。これはなぜであろうか。わたしは、後者の部類の人が自分自身の理解力を頼みとしていないからだと説明された。彼らは光の源、すなわち聖書に霊感をお与えになったお方の許へ行き、心のへりくだりをもって知恵を神に求める。そしてそれを受けるのである。熱心な探求者によってなお発見されるべき真理の鉱脈がある。キリストは真理を畑に隠された宝として表された。それは地表にあるのではない。わたしたちは、そのために掘らなければならない。しかし、それを探すのに成功するかは、わたしたちの知力よりも、むしろ心のへりくだりと神の力をつかむ信仰にかかっている。(教会への証 5 巻 704)

非常に偉大かつ厳粛な真理を委ねられてきた人々が、それに見合った信仰を表せばよいのだが！彼らは主のみ手に自分たちの働きを委ね、ひざをかがめて、知恵と導きを嘆願し、その後にすべての重荷をまた取り戻して、自分自身の力で計画を立てて実行し、重荷が重すぎるといってうめく代わりに、それを主にお任せしなさい。絶えざる活動の生活の中で、彼らはこのように自分たちの魂に休息を見いだすのである。(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1883 年 9 月 27 日)

神の御目に傷がなく

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだとを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のとき（まで）、責められるところのない者にして下さるように。」（テサロニケ第一 5:23）

悔悟とへりくだった信頼をもって、イエスを、すなわちわたしたちの罪が刺し通し、わたしたちの悲しみが重荷を負わせたお方を瞑想する一方で、わたしたちはこのお方の足跡を歩むことを学ぶことができる。このお方を眺めることによって、わたしたちはこのお方の神聖なみ姿へと変えられていく。そしてこの働きがわたしたちのうちになされるとき、わたしたちは義を自分自身のものとして主張せず、自分たちの無力な魂がこのお方の功績にすがる一方で、イエス・キリストを高めるのである。

わたしたちの救い主はいつでも自己義をお責めになる。このお方はご自分の弟子に、最高の宗教の種類とは、静かな慎み深い態度でそれ自体を表すものだとお教えになった。このお方は自分たちの愛の行為を静かに行うようにと警告なさった。みせびらかすためでなく、人からの讃美や誉れを受けることがないように、かえって神の栄光のために、自分たちの将来の報いを期待して行うのである。もし彼らが人によって良い行いを賞賛されたなら、天におられる彼らの御父から彼らに与えられる報いはない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1881年1月18日）

何かの義務について聖書の証をはっきりと理解しない時があれば、わたしたちは偉大な教師の許へ行くことを命じられている。わたしたちに知恵が不足しているとき、神に尋ねることがわたしたちの特権であり、義務である。もしわたしたちが謙遜と信仰のうちに行くならば、むなしく送り返されることはない。

しかし、人が義務の要求をはっきりと認めるとき、それが十字架を伴うからといって服従を免除されるよう祈るためにあえて神の許へ行くような僭越をゆるしてはならない。むしろ、へりくだった服従の精神で、真理を受け入れ実践するために、神聖な力と知恵を求めるために行かせなさい。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1883年9月25日）

わたしたちの安全は、キリストを眺めることにある。自己が礼拝の対象となっているとき、すなわち、自己称揚でいっぱいになっているとき、人は自分自身の偶像にひざをかがめ、キリストを見失っているとき、彼らは恐るべき危険の中にいる。キリストは世の光であられる。あなたの顔をこのお方からそむけるとき、あなたは闇の中を歩む。あなたの目をこのお方の完全に留めなさい。そうすれば、あなたは天の光のうちを歩む。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1902年3月26日）

「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (VI)」

Reformation Herald Publishing Association

5. 指導者たちのために払われた特別な努力

A) 1901 年の訴え (無視された)

「1901 年にバトル・クリークで開催された世界総会にて、主はご自分の民に、改革を要求しておられるという証拠をお与えになった。……もしかたくなな心がそのとき神のみ前に悔悟のうちに砕かれていたなら、かつて見られた中で最大の神のみ力の表れが見られたことであろう。しかし、神は尊ばれなかった。このお方の御霊の証に注意が払われなかった。人々は、いつも主のみ働きにおいて維持されるべき真理と義の原則に対する断固とした反対のうちになされた行為から離れなかった。」(教会への証 8 巻 97, 98 (1903 年))

b) 1903 年の訴え (無視された)

「バトル・クリークの治療院が破壊されたとき、キリストは男女の命を守るためにご自身を与えて下さった。この破壊において、神はご自分にもどるようにと、ご自分の民に訴えておられた。そして、レビュー・アンド・ヘラルド出版所の破壊において、命を救われたことによって、このお方は彼らに二度目の訴えをしておられた。」(教会への証 8 巻 102 (1903 年))

「わたしがバトル・クリークにおいて開催された告白と一致のすばらしい集会に関する報告を受けたのちに、日記を書いていたとき、変化が訪れたために感じた感謝を記録しようとしたら、わたしの手が止められて、次の言葉があった『それを記してはならない。少しも良い変化はなかったのである』。」(教会への証 8 巻 (1903 年))

C）1909 年の訴え（無視された）

「1909 年の世界総会の間、出席者の心の中でなされるべきであった働きがなされなかった。……かえって、罪の告白のために、心からの悔い改めのために、そして決定的な改革のために機会が与えられたにもかかわらず、徹底的な働きがなされなかった。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 400, 40（1909 年））

1888 年の悲しむべき経験が続く世界総会の会期中も繰り返されました。新たな訴えが指導層になされましたが、繰り返し拒まれました。本物のリバイバルと改革は、彼らのうちに目撃されませんでした。そして教会は避けられない結果に苦しみました。

V- 歴史は繰り返す

「光の拒絶は人々を闇の中に取り残す。そのため彼らは自分たちが何につまずいているかがわからない。拒絶されたユダヤ人への招待は、貧しい者、不具者、手のきかない者、足なえ、盲人に送られた。招待を拒んだ者は一人として、婚宴の食事を味わうことがないという恐ろしい通告がなされた。彼らはサタンのほのめかしに耳を傾け、言い訳をし、彼の指導の下、不信という闇の中に取り残されるのであった。彼らは主とその弟子たちに対する頑固な抵抗のうちにパロのように自ら深みに落ち込んだ。彼らはキリストの代わりにバラバを選んだのである。

尊いメッセージがこの終わりの時代にわたしたちに伝えられている。警告と嘆願が鳴り響いている。『さあ、おいでください。もう準備ができましたから』という招待が与えられてきた。今日という日のうちにあなたがたの心をかたくなにしてはならない。神が大いなる光をもって祝福してこられた男女は、自分たちの魂の敵のへつらいの嘘によって迷わされてしまうのであろうか。……わたしたちは立ち上がって、肉の安全というゆりかごの中でわたしたちを寝かしつけてしまう世の危険な無気力を払い落さないのであろうか。……神の御霊はいつまでも人と争うことをなさらない。……あなたがたは招きを拒んだユダヤ人に模倣するのであろうか。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1895 年 11 月 5 日）

自分たちの上に輝いていた光を拒むことによって、すなわちメッセージが天か

らのものであるかを確かめるために証拠を吟味することを拒むことによって、パリサイ人たちは聖霊に対する罪を犯した。……

ユダヤ人たちはキリスト拒む道を突き進み、ついには自ら欺き惑わされたその状態の中で、このお方を十字架につけることによって、神に奉仕していると思うようになった。……

わたしたちの時代にパリサイ人の罪が繰り返されている。多くの人々が光に背を向け、神の御霊の警告を聞くことを拒んでいる。しかし、心を神聖な印象に対して閉ざすことにより、わたしたちは自分たちの贖い主がこれほど恵み深くわたしたちに差し出しておられる許しを遠ざけている。憐れみと真理を拒むことにより、わたしたちは抵抗の進路、すなわち、もし従っていけば、ついにはそれ以外は何をする力もなくなってしまうところまでいきつく道のために備えている。最も鋭い嘆願が何の効果ももたらさないところまできた。神に屈服し、このお方のみ旨を行おうとする願望はもはや感じられない。霊的な感覚は鈍ってしまった。その結果は闇であり、またその闇はなんと深いことであろう！

聖霊はすべての人と争われる。魂に語りかけているのは神のみ声である。しかし、その声に抵抗するなら、どれほど率直であろうと、パリサイ人のように確信を打ち消し、証拠に抵抗するようになる。神はわたしたちをあきらめ、わたしたちは自分自身の傾向のままに取り残される。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897 年 7 月 27 日）

「サタンは、現代の真理を信じると主張する人々の経験において、ユダヤ国家歴史が繰り返されるように、働いている。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 111（1896 年））

「ユダヤ民族は、天から下された救いのメッセージを拒んだがゆえに滅ぼされた。神が偉大な光とすばらしい機会を与えて下さったこの世代の人々は、光を拒んで自分たちの破滅に至った人々の方向に従うのあろうか。」（教会への証 6 巻 146（1900 年））

(46 ページの続き)

たちが主を畏れて生きるとき、確かな約束がわたしたちのものです。「謙遜と主を恐れることとの報いは、富と誉と命とである」。「主を恐れることによって人は安心を得、その子らはのがれ場を得る」(箴言 23:17、22:4、14:26)。

しかし、主を畏れるというのは、実際どういう意味でしょうか? 詩篇記者は「子らよ、来てわたしに聞け、わたしは主を恐るべきことをあなたがたに教えよう。さいわいを見ようとして、いのちを慕い、ながらえることを好む人はだれか。あなたの舌をおさえて悪を言わせず、あなたのくちびるをおさえて偽りを言わすな。悪を離れて善をおこない、やわらぎを求めて、これを努めよ」と言っています(詩篇 34:11 ～ 14)。

イエスの力によって、これらの言葉に従う人々だけが、かつて造られた物の中でもっともすばらしく新しいものを目にし、楽しむ人となります。神は「見よ、わたしは新しい天と、新しい地とを創造する。さきの事はおぼえられることなく、心に思い起すことはない」と言われます(イザヤ 65:17)。彼らは忠実な少数の人々だけに与えられる特別な秘密を受け取るようになります。「耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者には、隠されているマナを与えよう。また、白い石を与えよう。この石の上には、これを受ける者のほかだれも知らない新しい名が書いてある」(黙示録 2:17)。

ですから、毎日神様に、新しいきよい心を下さるように、それによってむさぼりや、ねたみや、その他すべての悪い思いが、わたしたちのうちに生じないようにお願いしましょう。そのとき、わたしたちはだれでもキリストのうちにある人は「新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなった」ことを悟って感謝することができます(コリント第一 5:17)!

手早くかんたんハッシュド・ポテト！

〔材料〕
じゃがいも　4 個
塩　　適量

〔作り方〕
じゃがいもを洗い、野菜カッターなどで千切りにします。塩をまぜます。
温めておいたワッフル型に薄く油を塗って、千切りポテトをのせ、ふたをして15-20 分きつね色になるまで焼きます。

お好みで、バジルやたまねぎを混ぜてもおいしいです。
ワッフル型がない場合はフライパンでできます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

新しいことのすばらしさ

新しいものはすばらしいです。ですから、すべてのものを新しくされるお方を仰いでいましょう！

子犬と犬の違いは何でしょうか？子犬はもちろん犬ですが、なぜ子供たちはそれほど子犬が好きなのでしょうか？それは子犬がとてもかわいいからではないですか？子犬は特別な魅力があるようにみえます。その嬉しそうな小さい顔や、命にあふれ、飛び回って遊ぶ様子は、最も悲しんでいる人にでさえ、ほほえみをもたらします。しかし、実のところ、他の犬の家族とくらべて、子犬が違うところといえば、若いところ、―新しいところ―です。

だれでも新しいものが好きです。それが輝く新しい自転車でも、あるいはただのきらめく一円玉でもです。みなさんは何か新しいものが手に入ったとき、それがどんなに小さいものであったとしても、たしかに喜ぶことでしょう。

その一方で、他のだれかが新しいものを手に入れたのに、あなたの手に入らないとき、別の気持ちが起こってくるかもしれません。たとえばあなたの兄弟や姉妹や友だちはみんな何か新しいおもちゃを手に入れたのに、あなたにはないとしましょう。もしそうなったら、ねたみが生じるかもしれません。父親がたくさんの色の美しい着物をヨセフだけにあげて、その兄弟たちにはあげなかったとき、兄弟たちがどのように感じたか思いだして下さい（創世記 37:3,4 参照）。悪が彼らの心の中に生じました。

聖書はもちろん、何もむさぼることのないように、まただれもねたむことがないように命じています。しかし、もっとも厳しく警告しているのは、神を愛さず、畏れない人々をうらやむことです。たしかに、いつも彼らの方がこの地上の生涯において、より多くの物をもっているように見えます。しかし、天はどうでしょうか？もし彼らが主に立ち返らないならば、彼らがしばらく楽しんでいるように見えるすべてのものは、もはや新しいものでなくなります。実際、それらはその持ち主とともに破壊されてしまいます。

「心に罪びとをうらやんではならない、ただ、ひねもす主を恐れよ」。わたし

続きは 43 ページ